

# 幼稚園教育実習事後指導の実際

## An Analysis of the Guidance Methods in Kindergarten Teachers Post Practical Training

(2023年 3 月31日受理)

山 本 房 子  
Fusako Yamamoto

Key words : 教育実習, 実習事前事後指導, 教職課程コアカリキュラム, 教育職員免許法

### 要 旨

本研究の目的は、幼稚園教諭免許状取得の必須科目である「教育実習」の実習指導（事前事後指導）とりわけ事後指導について、岡山県内の保育者養成校のシラバスをもとにその実際を見ていきながら、事後指導の効果的な実践に向けての糸口を探ることである。事後指導の回数、方法、内容ともに養成校によって様々であること、事後指導の目標である実習で得られた成果と課題の省察及び必要な知識や技能等の更なる理解や習得については、当該授業だけで目標を達成することは難しい状況にあることが示唆された。他の授業科目においても事後指導の目指す目標を共有し、実習体験を生かした積み上げ式の学びを検討することが求められている。

### 1. は じ め に

教員になるためには、教育職員免許法に則って各学校種の免許状を取得しなければならない。免許状取得のためには、学位と教職課程における単位の修得等が必要で、その中の「教育実習」の単位は、教職課程②教職に関する科目として「事前事後指導」1単位と「実習」4単位の計5単位となっている。（幼稚園教諭免許状取得に関わる教育実習については表1）

	教育実習の必要単位	実習期間
幼稚園教諭免許状	5 単位 (事前事後指導 1 単位を含む)	4 週間程度
※実習にあたっては、幼稚園（特別支援学校の幼稚部を含む。）、小学校（特別支援学校の小学部を含む。）、幼保連携型認定こども園の教育を中心とする。 ※教育実習の単位数には、二単位まで、学校体験活動の単位を含むことができる。		

表1 幼稚園教諭免許状に必要な科目「教育実習」について

こうした単位の説明は、本学の幼稚園での教育実習に向けての授業科目「教育実習指導」において、初回の授業で伝えている。教育実習での学びというものが、幼稚園であれば4週間という現場体験だけでなく、事前の準備や事後の振り返り等も含めて成り立つことを学生にも周知するためである。保育実践の向上、保育者の力量形成において現場での実践のみならず、計画や準備、振り返りによって成立することにもつながる。

一方で、私見に過ぎないが、実習で学生が何を感じたか、実習先に対してどのような印象を抱いたかは、学生の進路にも少なからず影響しているであろう。また、学生は実習先で出会った保育者の言動や指導方法を通して、その根底にある保育観や子ども観にも触れることになる。

実習が学生にとって有意義なものとなるための事前指導、及び保育者を目指す気持ちがより高まるような事後指導を検討する必要がある。

学習指導等についての研究の動向を見ると、前（2020）

によると「保育士養成においては特に事後指導を重視する傾向が強くなっている」<sup>1</sup>とされ、事後指導の充実が求められている。では、事後指導では何が求められているのか、全ての大学の教職課程で共通的に修得すべき資質能力を示した教職課程コアカリキュラム（文科省・2017）<sup>2</sup>と、「保育士養成課程を構成する各教科目の目標及び教授内容」から見ていく。（表2）

教職課程コアカリキュラムでは、教育実習とは、「観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会」とし、「学校教育の実践を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける」ことが目標とされている。

事後指導の「一般目標」として、「教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解する」、「到達目標」として「教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解している」となっている。

一方、保育士養成課程の「教科目の教授内容」においては、「保育実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の実習事後指導の「目標」として「実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にすること」、「内容」を「事後指導における実習の総括と課題の明確化」として、「（１）実習の総括と自己評価」と「（２）課題の明確化」の２点が挙げられている。

教職課程コアカリキュラム 「教育実習」	保育士養成課程の教科目及び教授内容について 「保育実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」
<p>一般目標</p> <p>事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解する。</p> <p>到達目標</p> <p>２）教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解している。</p>	<p>目標</p> <p>５．実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にすること</p> <p>内容</p> <p>５．事後指導における実習の総括と課題の明確化</p> <p>（１）実習の総括と自己評価</p> <p>（２）課題の明確化</p>

表2 事後指導の目標等

また、全国保育士養成協議会東北ブロックが作成した「保育実習指導のガイドラインver. V」（2022）によると、保育実習事後指導の意義とは「日常の学内生活において体験することが困難な経験、すなわち、子ども、保護者、専門職者、地域社会等との具体的な関わりを通して得られた体験や経験について、学生自身が必要な学びとして認識できるよう必要な教育活動に取り組むこと」である。そのための目標と内容について、「実習全体の振り返り（省察）を行い、総括することを通して、学生が主観的か客観的に自己評価を行い、保育者を目指す者としての成長と課題を明らかにすること」としている。

保育用語辞典によると事後指導の学びとして次の4つが挙げられている。

- ①実践の場で理論や技術をいかすことができたか
- ②実際の子どもの姿や実態にふれ、どんなことに気づき発見し学んだか
- ③課題や疑問になったことは何か
- ④自らの保育者としての能力や適性を確認できたか

こうした学びを、実習担当者とともに実習生が相互に体験してきたことや考えたことを話し合い、実習体験を深めていくことが求められている<sup>3</sup>。事後指導における模索や実践の試みについて見ていく。

小林ら（2010）は、実習体系を見直すとともに、独自の「実習ハンドブック」を作成し、特に事後指導の内容の充実を図っている<sup>4</sup>。小島（2013）は「実習という体験な保育の学びを養成課程の学びとして有効にするための指導」を模索し、学生の保育実習後の振り返りの記述をもとに、実習指導において実習効果を改善するための教育の在り方やプログラム作成に取り組んでいる<sup>5</sup>。遠藤（2017）は保育実習の事後指導に異学年でのグループワークでの振り返りの機会を取り入れることの有用性を述べている<sup>6</sup>。増田（2017）は教員と学生との個別面談によるフィードバックの意義を検討している<sup>7</sup>。権（2021）は社会福祉士養成課程における相談援助実習の事後指導の現状について、「実習教育全体の学習効果を高めていく上で、実習のまとめや実習報告作成、報告会といったこれまでの事後指導の取り組みには限界がある」とし、学内プログラムの実践を通して事後指導の取り組みを見直す必要性を説いている<sup>8</sup>。先述の「保育実習指導のガイドラインver. V」（2022）にも、事後指導の指導内容、

指導方法について各養成校での取り組み等が示されている。佐藤（2017）は、東京都内の保育実習指導（施設）のシラバスをもとに保育実習指導（施設）現状と課題を明らかにした上で、保育実習指導ミニマムスタンダードを活用することを提言している<sup>9</sup>。

以上のことを踏まえ、本研究では、岡山県内の養成校における幼稚園教育実習の事前事後指導のシラバスを分析し、事後指導の実際を見ていくことで、今後の授業改善への手立てを探っていく。

## 2. 方 法

### （1）調査対象

岡山県の短期大学、大学、専門学校のうち、幼稚園教諭免許状を取得できる学部及び学科20校のうち19校（表3※）の幼稚園教育実習指導のシラバス

※幼稚園教諭免許取得が短大通信制併修により、独自のシラバスがない養成校は調査対象から外した。

※③④、⑥⑦、⑨⑩、⑬⑭はそれぞれ同じ学校法人の短期大学と大学である。

### （2）方法

幼稚園教育実習指導に該当する科目のシラバスを検討し、事後指導の回数、「授業の概要」、「到達目標」「授業計画」（指導内容）欄における事後指導の指導内容等の記述を抽出し、整理する。

対象校	学校種別	科目名 履修時期	実習実施学年 実習期間
①	大学	教育実習指導	3年次 9/1～9/28
②	大学	教育実習指導	10月
③	短大	教育実習指導	2年次
④	大学	事前事後指導（幼稚園）	3年次
⑤	大学	教育実習指導	
⑥	短大	教育実習	2年次9/1～9/28
⑦	大学	幼稚園教育実習指導Ⅱ	3年次9/1～9/28
⑧	大学	教育実習事前・事後指導	3年次
⑨	短大	教育実習指導 2年生後期	2年次10/24～11/18
⑩	大学	教育実習研究A 3年生後期	3年次 10/24～11/18
⑪	短大	教育実習Ⅱ	2年次
⑫	大学	教育実習Ⅲ（幼稚園教育実習）	3年次
⑬	大学	初等教育実習事前事後指導[a]	3年次 10/3～10/28
⑭	専門	教育実習指導	2年次
⑮	短大	事前・事後指導	2年次
⑯	短大	教育実習法	2年次
⑰	大学	教育実習指導	3年次
⑱	短大	教育実習指導（幼）	2年次
⑲	大学	教育実習指導（幼稚園）	3年次

表3 調査校の教育実習に関する科目名及び履修時期等

## 3. 結 果 と 考 察

調査校のシラバスの事後指導に関する記述を抽出したものが資料1（大学）、資料2（短期大学、専門学校）である。ここでは、事後指導の回数（表4）、到達目標（表5）、指導計画内容（表6）について本学での現状とも合わせて見ていく。

### （1）事後指導の授業回数

事前事後指導の回数は、各養成校によってばらつきがある。事前指導と事後指導を行う場合に事後指導にあてる回数は5回以内が多かった。特に短期大学においては⑥以外の養成校では全て5回以内の実施であった。大学においても半数近くは5回以内の実施である。事後指導よりも事前指導に重きが置かれている現状である。

本学では、2年生後期の10月下旬から4週間現場での教育実習が実施される。その実習指導15回のうち事前指導に10回、残りの5回を事後指導としている。2年生後

事後指導回数	養成校（下線は短大・専門）
1回	<u>⑪⑮</u>
2回	<u>③④</u>
3回	<u>⑮</u>
4回	<u>②⑩⑮</u>
5回	<u>⑧⑨⑮</u>
6回	<u>①</u>
9回以上	<u>⑥</u> （15回） <u>⑦</u> （15回） <u>⑬</u> （9回～） <u>⑰</u> （9回）
不明	<u>⑤⑫⑭</u>

表4 事後指導の回数

期の授業開始が9月下旬であるため、実習までの1ヶ月間で事前指導（10回）を行わなければならない。実習後も、お礼状、テーマレポート作成、自己評価シート作成、実習の振り返り、実習報告会に向けて等、事務的なことから振り返りも含めて様々な内容を事後指導の中で行っている。

事後指導に特化した授業（⑥⑦）、授業展開（⑬⑰）を実施している養成校もある。⑦⑬⑰は4年制大学であることから、短期大学よりも授業時間やカリキュラムの構成において余裕があるとも言えよう。⑥の短期大学でどのようなカリキュラムが組まれているのか、また、他の実習指導との関係性等についても今後検討が望まれる。

## （2）事後指導の目標

先述の教職課程のコアカリキュラムによる事後指導の目標である「成果と課題等を省察」「習得すべき知識や技能等について理解」につながるものが多くの養成校で事後指導の目標として設定されていた。「自己評価」や「課題の明確化」についても多くの養成校で目標として挙げられている。

	養成校の記述
課題の明確化	③今後の学習に向けた課題や目標を明確にする ⑦自己課題意識が明確になる ⑧将来への希望と今後の学習への意欲を高める ⑨自己課題を明確にする ⑬習得すべき知識や技能等について明確にする ⑮今後の課題と目標を明確にする ⑭次年度に役立てる ⑮自己課題を設定する ⑯自己課題や目標を見出す ⑰今後の課題と目標をもつ
理解を深める	②幼稚園教育について理解を深める ⑦幼稚園教諭としての資質や専門性について理解できる ⑧経験したことをより意義深いものにする ⑰成果を深化拡充し、幼稚園教育についての一層の理解を深める ⑮⑰教育実践への理解を深める
新たな視点	⑦保育に関する新たな視点、解決策を見付けられる
省察	①自らの実践を省察することができる
評価	⑮評価の意義を知る

表5 事後指導の到達目標

## （3）事後指導の内容

5校以上の養成校で取り組まれている内容は、グループ討議（8校）、自己評価（8校）、反省会・報告会（7校）、自己課題（7校）、レポート作成（5校）である。先述の増田（2017）が有効だとした個別面談については1校だけであった。

本学でも個別面談を実習後に実施しているが、シラバスには記載していない。その理由は、実習指導の時間外で実施していること、必ずしも全員に十分な面談時間がとれないからである。シラバスには記載していないものの、実習後の個別面談は非常に重要だと認識している。本学においては自己評価シート（授業時間で作成）と園からの評価表をもとに自己評価と他者評価をすり合わせていくが、そこでの学生の気付きや実習担当者と共有することにおいて、幼稚園教育へのより深い理解や自己課題の明確化につながるためである。今後も個別面談での学びや効果を明確にしていきながら、事後指導への位置付けを行っていきたい。

内 容	養成校
日誌の点検・反省	①
全体反省会・報告会・発表会	②④⑨⑩⑬⑰⑱
グループ討議	②④⑥⑦⑩⑬⑯⑰
情報交換	④
実習の反省	①⑬⑯
自己評価	①③⑥⑦⑨⑩⑮⑯
自己課題・今後の課題	①③⑦⑧⑮⑯⑱
現場との連携 講演	①⑬
遊びの共有	⑦
エピソード記述による振り返り	⑦
指導案の再検討	⑦⑰
意識の変化	⑦
レポート作成	⑨⑩⑬⑰⑱
遊びの特徴・教師の役割	⑨⑩⑰
幼稚園教育の特質	⑨
礼状	⑱
心構え	⑥
面接	⑥

表6 事後指導の内容

## 4. 考 察

これまで、各養成校でどのように幼稚園教育実習の事後指導を実施しているかシラバスを通してその実際を探っていった。幼稚園教育実習での事後指導における現状について2点挙げる。

まず、実習指導における事後指導の回数、その内容ともに養成校によって様々であった。実習指導において、事後指導の回数が5回以内の養成校が半数以上であった。一方で、事後指導にあてられる回数は少ないものの、多くの内容が組み込まれていた。特に、養成期間が2年である短期大学ではその傾向が顕著である。実習の振り返りや自己評価、グループ討議、レポート作成、報告会実施等など、どれも必要な内容であろうが、その目的や学生の学びを明確にしておくことが求められる。

次に、事後指導の目標と内容について、教職課程コアカリキュラムでも示されている「成果と課題等を省察」「習得すべき知識や技能等について理解」の視点で多くの養成校で目標が設定されていた。一方で、保育実習指導の事後指導において目標として挙げられている「自己評価」や「課題の明確化」を目標に設定している養成校も多くあった。このことから、多くの養成校で、教育実

習指導と保育実習指導において共通に指導されていることも多いと思われる。したがって、どちらかで学べばよいことは省略する、一緒に実施する、そして、保育所や施設での実習と幼稚園での実習を異なるものとしてではなく、積み上げ式にとらえて指導することも必要であろう。

## 5. お わ り に

本研究では岡山県内の養成校のシラバスのみを取り上げたが、今後は他の地域の養成校の現状もふまえながら、養成課程の期間に合わせた事前・事後指導のプログラムを検討する必要があるだろう。

加えて、幼稚園教育実習だけでなく、その他の実習、保育所実習や施設実習に関わる、事前・事後指導についても体系的にとらえていく必要があるだろう。本学で言えば、1年後期の施設での実習において明らかになった課題が、2年前期の保育所実習での目標となり、保育所実習での課題が後期の幼稚園教育実習の目標となる。施設、保育所の実習での利用者や子どもに向かう態度や保育観については幼稚園教育実習においても共通するものも多い。積み上げ式の実習指導を検討することで、教員・保育者になるための継続的な成長と学びの機会が確保される。

最後に、事後指導の目標の検討についてである。教職課程のコアカリキュラムで示されている目標「成果と課題等を省察」「習得すべき知識や技能等について理解」、保育士課程による目標「自己評価」や「課題の明確化」は質の高い教員、保育者を養成するためには必要なことである。一方で、こうした目標を、現在の保育者養成校の実態や保育職の現状と照らし合わせていく必要もあるだろう。教員、保育者としての質的向上を目指すことに加えて、保育職の魅力ややりがいを実習を通して学生自身が再認識できるような実習指導が求められる。例えば、子どもと生活することの楽しさや学生自身も子どもと共に成長していることの実感など、現場の実習でしか学べないことに学生自身が気づき、今後も保育に携わりたいと思えることを目標とした事後指導が求められよう。

ここ数年、実習園の先生方から度々次のような話を聞く。「うちの幼稚園で実習を行った学生が、保育者にな

りたいと思えるような実習にしたい」「実習のせいで保育職に就きたくないと思われないようにしたい」「できないことがあってもいいから、実習を楽しみに来てほしい」

筆者は、数年前まで幼稚園教諭として現場で実習生の指導にあたってきた。その時にも、園長から「私達が実習生を評価するだけでなく、実習生も我が園や先生たち、幼児教育という仕事を評価していることを忘れないでほしい」と伝えられた。現在養成校に勤務し、未来の保育者を育成しているがこの言葉の重みを実感する。

養成校、学生、受け入れ園ともにそれぞれの立場で、準備、配慮、時間、手間をかけて実習に向き合っていることはまちがいない。実習で学生は何に気づき、何を学び、何が実習前の自分と変化・成長したのか、そうした問いかけを繰り返しながら、4週間の実習に意味や価値を学生自身で見出していく、それを支えることが事後指導の役割である。今後も事後指導に関する内容の充実を他の養成校の実践も参考に検討し、本学の実態に合わせた指導を実践していきたい。

## 6. 参考・引用文献

- <sup>1</sup>前 正七生『保育者養成校教員の蹉跌－訪問指導と事後指導に関する現象学的還元－』淑徳大学短期大学部研究紀要 第61号（2020） pp. 91－101
- <sup>2</sup>文部科学省「教職課程コアカリキュラム」（2017）
- <sup>3</sup>森上史朗 柏女霊峰 編 「保育用語辞典 第8版」ミネルヴァ書房（2016） p191
- <sup>4</sup>小林邦江 他『実習事前事後指導に関する一考察－実習ハンドブックの作成の過程から－』「愛知江南短期大学紀要」39 （2010） pp. 173－180
- <sup>5</sup>小島千恵子『実践力を見につけるための実習プログラムの構築－学生の実習後の「保育者の資質と力量」についての振り返りの記述から－』「名古屋柳城短期大学研究紀要」第35号（2013） pp. 173-181
- <sup>6</sup>遠藤順子『保育実習事後指導における振り返りの意義と課題～関係性と時間性の中で生じるストーリーに着目して～』「昭和大学現代教育研究所紀要」第3号（2017） pp. 63-73
- <sup>7</sup>増田吹子『幼稚園教育実習の事後指導における個別面

談によるフィードバックの試み』「鹿児島純真女子短期大学研究紀要」第47号（2017） pp. 157-165

- <sup>8</sup>権順浩『実践報告：相談援助実習の事後指導に関する一考察－学内実習指導の経験を通して－』「神戸親和女子大学福祉臨床学科18巻（2021） pp. 33－41
- <sup>9</sup>佐藤恵『保育実習指導（施設）シラバスにおける指導の現状と課題』「東京未来大学研究紀要」Vor. 11（2017） pp. 105－111

全国保育士養成協議会東北ブロック作成「保育実習指導のガイドラインver. V」（2022）

森元真紀子『段階を追ってポイントが分かる必携幼稚園教育実習』、ふくろう出版（2023）

一般社団法人全国保育士養成協議会「保育士養成課程を構成する各教科目の目標及び教授内容について」（2019）

資料1 岡山県内の保育者養成校（4年制大学）の教育実習後の指導(事後指導)に関するシラバスの記述

	授業科目	指導回数	授業の概要等	到達目標	授業計画・指導内容
①	教育実習指導	6回		教育実習の準備学習を促進し、教育実習後に自らの実践を省察することができる	実習日誌への記載内容の点検 実習日誌に基づく反省 責任実習に基づく反省 教育実習成績報告書と自己評価 実習を通じた気付きや学びと今後の課題 幼稚園から実習生に望むこと（講演）
②	教育実習指導	4回	実習後は各自の体験を発表し合い、実習の成果を共有する	実習後の振り返りを通して、幼稚園教育についての理解を深める	全体反省会 実習の振り返り(1)グループ討議 実習の振り返り(2)グループ討議とまとめ 幼稚園教育実習報告会の実施～実習の総括～
④	事前事後指導(幼稚園)	2回	授業の内容及び方法 教育実習の成果と課題をまとめ、幼稚園教育の基本を習得する		実習直後の情報交換・グループ協議とまとめ 実習の成果と課題発表・成果と課題のまとめ
⑦	幼稚園教育実習指導Ⅱ	15回	実習についての自己分析・評価、発表、保育実践での課題等について討議を行う。グループごとに実習で明らかになった課題場面を取り上げ、改善及び発展を目指した討議を通して、保育者としての新たな課題や必要な学修についての考えを整理する	幼稚園教育実習を振り返り、幼稚園教諭としての資質や専門性について理解できる 学生同士の討議により課題を共有し、保育に関する新たな視点、解決策を見付けられる。 実習についての反省・評価から自己課題意識が明確になる	オリエンテーション及び授業概要の説明 実習園の概要報告 実習テーマのまとめ 保育実践での課題の討議(1)成功事例より 保育実践での課題の討議(2)失敗事例より 保育実践での課題の討議(3)遊びの視点より 保育実践での課題の討議(4)環境の視点より 評価表に基づく自己評価 評価のフィードバック及び実習中に実践した遊びの共有 評価のフィードバック及びエピソード記述による振り返り 評価のフィードバック及び指導案の再検討 評価のフィードバック及び自己課題の探求 実習前と実習後の意識の変化について(1)子ども観・保育観 実習前と実習後の意識の変化について(2)職業観 総括 保育の実践者として
⑧	教育実習事前・事後指導	5回	事後指導においては、実際に実習で得てきた経験を振り返り、幼児の姿・指導法・環境構成について再度確認しながら整理し、まとめていく。	実習を振り返り、経験したことをより意義深いものにするためのまとめをする。	実習のまとめ(1)実習の成果と反省・今後の課題明確化(幼児理解) 実習のまとめ(2)実習の成果と反省・今後の課題明確化(指導法・技術) 実習のまとめ(3)実習の成果と反省・今後の課題明確化(環境構成) 実習のまとめ(4)実習の成果と反省・今後の課題明確化(指導案) 実習のまとめ(5)実習の総括(幼稚園教諭として)
⑩	教育実習研究A	4回		実習の体験をふまえて、将来への希望と今後の学習への意欲を高める	教育実習のまとめ(1)実習を終えての反省と評価 教育実習のまとめ(2)テーマレポート、グループワーク、自己課題の反省と評価 教育実習のまとめ(3)グループワーク 教育実習のまとめ(4)3～5歳クラスの生活と遊びの特徴と教師の役割／実習報告会
⑫	教育実習Ⅲ(幼稚園教育実習)	不明			事後指導(幼児から学んだこと、教師から学んだこと今後の課題等)
⑬	初等教育実習事前事後指導[a]	5回	教育実習後に、自分の実習の成果と課題を明らかにし、今後の学びについて計画をもつ。	教育実習を経て得られた成果と課題等を省察し、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について明確にすることができる	[教育実習の反省と課題] 教育実習の振り返り(個人と各園別) 教育実習報告会 教育実習のまとめ(実習記録等の整理とレポート作成)
		4回			[教育現場との連携] 人権問題(人権意識を育てる教育活動の理論と実践) 教員採用試験合格体験談(現役合格者から) ボランティア・インターンシップによる現場体験
⑰	教育実習指導	9回	実習後は、実習中に会った諸問題について省察し、発表・討議することにより、実習での成果を深化拡充し、幼稚園教育についての一層の理解を深めることができるようにする	実習中に会った諸問題について、総合的な観点から考察することができる 実習における学びについて整理し、その学びを記録・共有するために、文章で表現することができる	話し合いによる教育実習の振り返り 実習中の指導実習に関する省察 実習中の指導実習に関する討議 実習中の指導実習に関する改善案の検討 改善した指導案の作成 対象児の成長と保育の方法に関する省察 対象児の成長と保育の方法に関する討議 対象児の観察から得た学びに関する記録の作成 実習成果発表会
⑲	教育実習指導(幼稚園)	5回	実習で学んだことが、発表や討議などを通してさらに深まるようにし、各自の今後の課題と目標がより明確になるようにする	教育実習を反省・考察し、教育実践への理解を深めるとともに、自らの今後の課題と目標を明確にする	教育実習を終えて 実習全体の反省と整理 礼状の書き方 実習報告会(全体討論) 教育実習の評価(1)教師のかかり及び自己課題について 教育実習の評価(2)求められる教師と今後の行動計画 教育実習を終えて 報告書の作成

資料2 岡山県内の保育者養成校（短期大学・専門学校）の教育実習後の指導(事後指導)に関するシラバスの記述

	授 業 科目名	事後指導 回数	授業の概要等	到達目標	授業計画・指導内容
③	教育実習指導	2回	実習終了後の事後指導では、実習で得た問題意識や未熟であった技術や知識について、今後積極的に習得する努力をしようとする態度を養い、実践的な教育や支援ができる能力を養うことをめざす		事後指導①反省と評価 事後指導②まとめと今後の展望
⑤	教育実習指導	不明			実習後の学修 実習期間中の貴重な体験を振り返り、そこからみえてくる諸課題を今後の学修に結びつけ、教師としての実践力向上のための力を継続することが望まれる。
⑥	教育実習	事後指導 15回	実習を振り返り、テーマに沿ってグループワークやディスカッションを実施する。また、教員と個人面談を行う中で、個々の課題を明示化し、今後にどのように生かすか検討する	実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする	自己評価 クラスごとの繰りかえりのまとめと発表①～③ 面接①～⑥ テーマについてのまとめと発表①～④ 社会人としての心構え
⑨	教育実習指導	5回	実習終了後は実習の振り返りやグループ討議、反省会等を行い、幼稚園教諭としての資質向上のための課題と解決方法を明らかにする	テーマレポートと自己評価表を作成できるとともに、実習での学習の成果のまとめと発表をし、自己課題を明確にする。	幼稚園教育の特質、学級経営 幼稚園教諭の役割と援助 教育実習のまとめⅠ 反省及び自己評価 教育実習のまとめⅡ テーマレポート作成 教育実習のまとめⅢ 実習報告会
⑪	教育実習Ⅱ	1回	実習後1回で事後指導を行う		教育実習Ⅱの事後指導
⑭	教育実習指導	不明	教育実習後に振り返りや反省、考察をするとともに、次の教育実習や現場に向けての意識向上や準備や心構えについて	教育実習での振り返りから、反省考察を互いに共有し、次年度に役立てることができる	教育実習後に振り返りを行い、反省・考察を行うことで次年度の実習に向けて生かしていけるようにする
⑮	事前・事後指導	1回		評価の意義を知り、実習後の振り返りを通して自己課題を設定する	講義内容 教育実習を振り返るための自己評価シートへの記入方法を解説する 学習成果 保育専門職就職に向けての自己課題を確認する 課題 自己評価シートへの記入
⑯	教育実習法	4回		実習内容の考察を行い、自己目標や課題を見出すことができる	実習の振り返りと自己評価 実習報告会 実習の振り返りと相互学習 実習報告会 次週の振り返りと講評 まとめー実習からみえる自身の良さと課題
⑱	教育実習指導（幼）	3回	実習で学んだことを生かし、各自の今後の課題と目標を明確に出来るよう、発表は討論などを通して考えていく	教育実習を反省・考察し、教育実践への理解を深めるとともに、自らの今後の課題と目標をもつことができるようにする	実習を終えて 教育実習の成果と課題 教育実習の成果と課題 教育実習を終えて 今後の自己課題